

# 農村景観体系に「風土」「歴史」をどのように位置づけるか？ How Can We Orientate “Climate” and “History” within Framework of Rural Landscape?

○坂田寧代\* 服部俊宏\*\*

SAKATA Yasuyo, HATTORI Toshihiro

## 1. はじめに

2003年に農林水産省が提示した「水とみどりの『美の里』プラン 21」を受け、「水とみどりの『美の里』づくりへの対応検討準備会」（以下、準備会）が同年秋に学会に発足した。準備会では、農山村における良好な景観の形成のための〈知の蓄積〉〈人材の育成〉〈情報の発信〉を目的として活動を行ってきた<sup>1)2)</sup>が、2006年度は「そもそも良い農村景観とは何か」という問いに対して幹事間の共通認識を得、「研究の枠組み」を構築することに重点が置かれた。その議論の中で課題として残されたのが、「風土」「歴史」の定義、および、それらと農村景観の関わりである。本報では「農村景観の捉え方」を本セッションのテーマに選定するに至った経緯を述べる。



写真1 第1回勉強会の様子  
Progress of the 1st study meeting.

## 2. 活動経過

2006年度は主に、(1)「美の里」づくりに関わる指針や基準作成の基礎資料となることを狙いとして、幹事が個別研究を推進する(2005年度から継続)、(2)研究の枠組みを構築し、その中に個別研究課題を位置づけるという活動を行った。(2)では、幹事による勉強会を2回実施し、第1回に「良い農村景観」に関するブレインストーミング、第2回に研究の枠組みの構築を行った。

## 3. 良い農村景観とは

図1は、「良い農村景観」が具備している要素を幹事が出し合い、それを図中に示す用語に概括し、用語間の関係性を図式化したものである。

すなわち、「良い農村景観」は、『要素』（「生き物」「伝統的な農地」等）が『属性』（「場所性（地域性）」「秩序（土地・建物）」「自然との調和」等）の面で配慮されている。『要

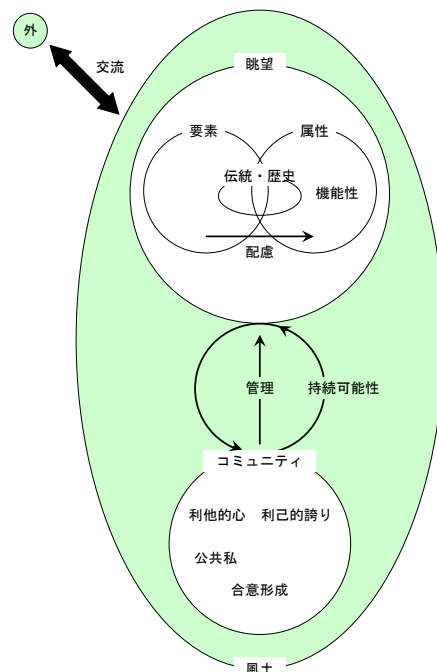


図1 良い農村景観の概念図  
Schematic diagram of good rural landscape.

\*石川県立大学 Ishikawa Prefectural University, \*\*北里大学 Kitasato University  
キーワード：水とみどりの「美の里」プラン 21，農村景観，研究の枠組み

素』『属性』は共に『伝統・歴史』を包含していることが望ましく、それらは『眺望』を形成している。一方、『合意形成』が行われ得る『コミュニティ』では『利他的心』『利己的誇り』が醸成されている。その『コミュニティ』は『持続可能性』を追求しながら『管理』を通して先述の『眺望』に働きかけ、その結果『眺望』から『コミュニティ』にフィードバックしている。以上を内包するのが『風土』であるが、『風土』は独立しており、『交流』を通して『外』とつながっている。

ここで不明確な点は、例えば、『風土』は『眺望』と『コミュニティ』の相互作用を内包するとしても、『眺望』と『コミュニティ』の相互作用を指して『風土』の定義とはできないこと、また、『伝統・歴史』と『風土』の関係性などである。

#### 4. 研究の枠組みの構築と個別研究課題の位置づけ

「良い農村景観」を踏まえて構築した研究の枠組みを図 2 に示す。『景観分析』『景観評価』を経て『景観操作』に至る一連の流れがあり、その出発点であり、かつ終始想起すべきなのが『景観概念』である。『景観概念』は「農村景観とは何か」「農村景観はどうあるべきか」という本質、哲学などを指す。『景観分析』は農村の『空間』『社会』を対象に実体を分析し、『景観評価』は『印象評価』『価値判断』『影響・効果』を含むものである。『景観操作』はデザイン、合意形成、住民参加、規制・誘導方策などによって農村景観を操作するものであるが、操作は直接、間接のほか「操作をしない」という『非操作』も含む。参考までに、個別研究課題を研究の枠組み上に位置づけたものを表 1 に示す。

#### 5. おわりに

以上のように、農村景観の捉え方を考える上では、未整理の点がいくつか残されている。そこで、本セッションでは特に「風土」「歴史」といった概念をどのように理解し、それを農村景観体系にどのように組み込むべきかを議論したい。

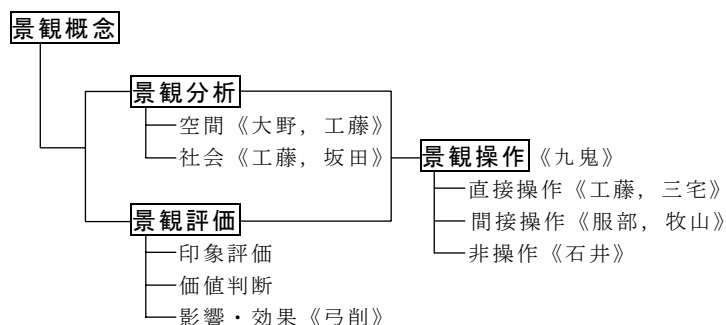


図 2 研究の枠組み上での個別研究課題の位置づけ

Orientation of each research subject within research framework.

表 1 研究の枠組み上での個別研究課題の位置づけ

Orientation of each research subject within research framework.

幹事氏名	個別研究課題名	研究の枠組み位置づけ
石井 敦 大野 研 九鬼康彰 工藤庸介	丸山千枚田の保全に要する金銭と労力について 美しい村の配置的特徴について 市町村条例に基づく農村景観の保全形成に向けた取組の実態 ため池が有する多面的機能の性能規定化に関する研究	景観操作—非操作 景観分析—空間 景観操作（全体） 景観操作—直接操作 景観分析—空間・社会
坂田寧代 服部俊宏 牧山正男 三宅康成 弓削こずえ	大規模農家による農業用排水路等の維持管理に関する研究 都市農村交流が農村景観形成・保全に与える影響 地域づくり活動としての都市農村交流に地元住民が参加する過程 土地利用再編による新たな農村景観の形成 客観的基準を用いた農村景観の評価手法の確立	景観分析—社会 景観操作—間接操作 景観操作—間接操作 景観操作—直接操作 景観評価—影響・効果

引用文献 1)農業土木学会（2005）：平成 16 年度水とみどりの「美の里」づくりへの対応検討報告書  
2)農業土木学会（2006）：平成 17 年度水とみどりの「美の里」づくりへの対応検討報告書